

日々の祈り

2022年3月14日(月)~19日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・受難節、イエスさまがわたしたちの罪のために担われた苦難の十字架を覚えて、悔い改めと感謝を持って日々を歩めるように。
- ・一刻も早く戦争が終わり、人々に平安が与えられるように。またわたしたちが祈り続け、与えられた場所で主の平和の使者として用いられるように。
- ・弱さや苦しみ、恐れや不安を覚えている者に、主にある慰めと励ましがあるように。

14日(月)

ルカによる福音書 21章 36節

しかし、あなたがたは、起ころうとしているこれらすべてのことから逃れて、人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈りなさい。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。多くの苦しみや悲しみ、罪や悲惨さが、わたしたちの目を覆います。しかしわたしたちは、それでもわたしたちを憐れみ、愛し、導き続けて下さっている神さまをこそ見つめなければなりません。目を閉じたり、諦めたり、俯いてはなりません。力ある御言葉をくださる方、御心を必ず実現して下さる方を、頭を上げてしっかりと見つめ、イエスさまの救いに依り頼み、希望を失わずに、今与えられている日々を大切に歩みたいのです。

15日(火)

ルカによる福音書 17章 23節

『見よ、あそこだ』『見よ、ここだ』と人々は言うだろうが、出て行ってはならない。また、その人々の後を追いかけてもいけない。稲妻がひらめいて、大空の端から端へと輝くように、人の子もその日に現れるからである。

終わりの日。イエスさまが再び来られる日。その日イエスさまは、「稲妻がひらめいて、大空の端から端へと輝くように」現れると言われました。すべての者に一瞬で分かる仕方で。一部の人に隠されたり、気付かれないようなことはなく、すべての者の目に、神のご支配が明らかになる時が来るのです。見えない者を信じていたわたしたちが、この目で救いをはっきりと見る日。復活のイエスさまと、この目で見え、お会いする時。その日は恐ろしい日ではなく、わたしたちにとっては待ち焦がれた方にやっと出会える、大変な喜びの日です。

16日(水)

テサロニケの信徒への手紙一 5章 4~6節

しかし、兄弟たち、あなたがたは暗闇の中にはありません。ですから、主の日が、盗人のように突然あなたがたを襲うことはないのです。あなたがたはすべて光の子、昼の子だからです。わたしたちは、夜にも暗闇にも属していません。従って、ほかの人々のように眠っていないで、目を覚まし、身を慎んでいきましょう。

わたしたちは、暗闇の中にはありません。この目にはそう見えていても、わたしたちは確かに、神さまのご支配の中に、大いなる光の中にはいるのです。わたしたちは、そのことを信じ、確かな救いの恵みを見つめていきたいのです。眠っていないで、目を覚まし、いつも神さまの眼差しの中にあることを思って、神さまの御心を思って歩みたいのです。

17日(木)

ガラテヤの信徒への手紙 3章 26~29節

あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。あなたがたは、もしキリストのものだとするなら、とりもなおさず、アブラハムの子孫であり、約束による相続人です。

イエスさまは、世のすべての者を罪から解放し、神の子、神の民へと招く道を拓いて下さいました。ご自分の十字架の血によって罪を贖い、わたしたちが神のものとなされ、神の国の相続人として生きる道を備えて下さったのです。今や、わたしたちは神の子なのです。

18日(金)

出エジプト記 12章 13~14節

あなたたちのいる家に塗った血は、あなたたちのしるしとなる。血を見たならば、わたしはあなたたちを過ぎ越す。わたしがエジプトの国を撃つとき、滅ぼす者の災いはあなたたちに及ばない。

次の主日礼拝の御言葉です。イスラエルの民の重要な祭りに「過越し祭」があります。主なる神さまが、ご自分の民をエジプトの奴隷から解放される時、神さまはエジプトの国を撃たれましたが、小羊を屠ってその血を塗った家は過ぎ越され、災いを免れさせました。つまり、この民の奴隷からの解放は、徹底して神さまのお働き、神さまの御力によるものだったのです。この神さまの主権と一方的な恵みによる救いは、イエスさまによってすべての人を罪から解放する恵みへの道備えでした。そしてイエスさまは御自分の血によって、わたしたちすべてを、罪から解放して下さいました。

19日(土)

による福音書 22章 13節

二人が行ってみると、イエスが言われたとおりだったので、過越しの食事を準備した。

明日の主日礼拝の御言葉です。イエスさまが過越しの食事を弟子たちに準備させました。しかし、それはイエスさまがあらかじめ必要な場所を備え、用意しておられたのです。主が整えられた食卓です。神が民を奴隷の家から解放して下さいました、救いの御業を記念する過越しの食事を、イエスさまは十字架に架かれる前の最後の晩餐として備え、弟子たちを招かれたのです。そしてこの食卓は後に、イエスさまの救いの御業によって、すべての者が罪から解放された救いの恵みを記念する食卓とされました。

聖句: 日本聖書協会『聖書 新共同訳』